

# 『発掘'16』

平成 28 年度 発掘調査・文化財速報



大幣神事 (6月)



文化財見学会 興聖寺 (11月)



太閤堤フォーラム (11月)



京都府茶業会館修理事業 (6月~1月)



史跡宇治川太閤堤発掘調査 (9月~3月)



太閤堤茶樹植樹 (4月)



庵寺山古墳公開 (11月)

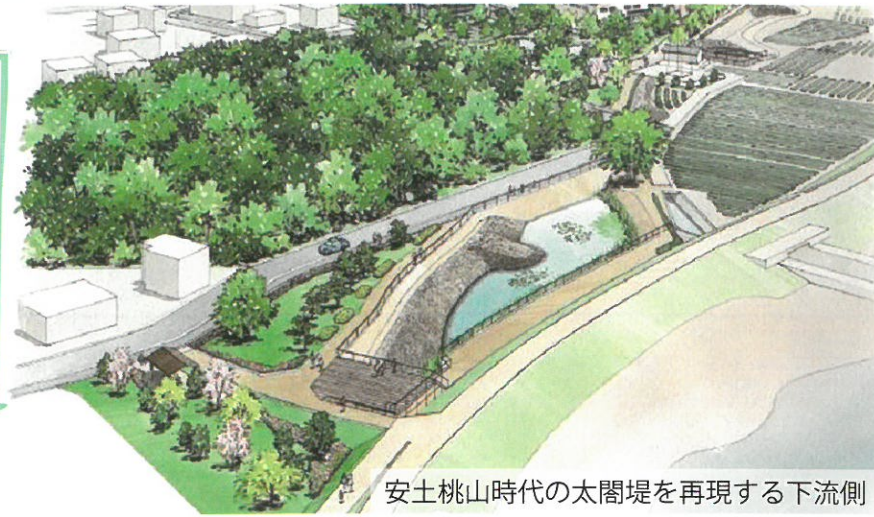
宇治市歴史まちづくり推進課

# 史跡宇治川太閤堤跡は今！

太閤堤は安土・桃山時代に豊臣秀吉が淀川と宇治川に造らせた堤防の総称です。秀吉は晩年に伏見城を築き、周辺河川を整備して伏見を交通と政治の要にしようとしたと考えられています。史跡宇治川太閤堤跡は、平成19年度に実施した土地区画整理事業に伴う「乙方遺跡」の発掘調査で太閤堤の壮大な護岸施設が見つかり、平成21年7月23日に国の史跡に指定されました。宇治市ではこの貴重な文化財を広く公開するために、史跡公園の整備に取り組んでいます。



史跡地のうち下流側は、安土桃山時代に秀吉が築いた壮大な石積み護岸と当時の宇治川を再現し、上流側は太閤堤が砂に埋もれて、やがて茶園が営まれる江戸から明治時代を再現します。



安土桃山時代の太閤堤を再現する下流側



江戸時代から明治時代の太閤堤を再現する上流側



## 昔の茶園をつくろう！

ふるさと学習「宇治学」で地域学習に取り組んでいる近隣の三戸小学校5年生と一般市民約100名が茶園づくりを行いました。



## 平成28年の史跡整備について

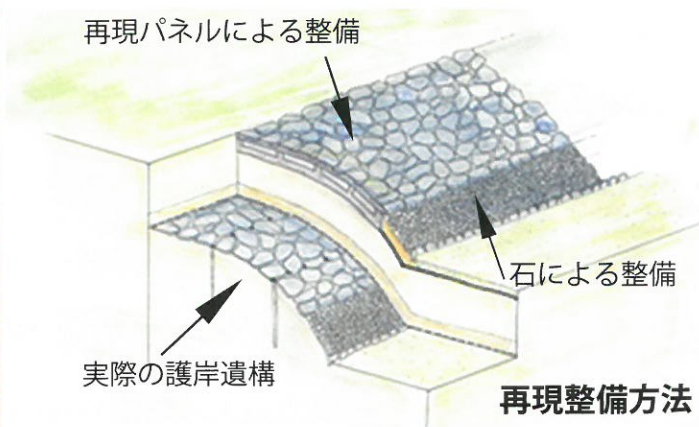
遺跡は宇治川の水位が上がると、水没するため現物展示ができません。このため埋め戻した真上に、再現をすることになりました。安土桃山時代の太閤堤を再現する下流側は遺跡の3次元測量をした上で型を取り、GRC（ガラス繊維強化セメント）を用いて原寸大で、そっくりそのまま再現します。平成25年から張り石部分を再現したGRCパネルの製作を開始し、今年度に現地に設置しました。

## 平成28年の発掘調査について

これまでの調査で太閤堤の護岸施設は石を積んだ石積み護岸や、杭列に横板を渡した杭留め護岸など場所によって異なることが明らかになりました。また、川岸には約90mおきに「石出し」と呼ばれる水制が造りつけられていました。今年度の発掘調査は、石出し3の詳細な記録を作成するために実施しました。これまでの調査で確認していた石出し1は、河床から石出しの上面までの高さが2m程度でしたが、今回発掘した石出し3は3.5mもある大きなものでした。石出しの下流で見つかった杭出しは、石出し1でも見つかっており、石出しと杭出しがセットでつくられている可能性が考えられます。石出しの先端は壊れており、当時の激しい水流の傷跡がうかがえます。



パネル設置事業（平成28年撮影）



再現整備方法

↑上の写真は、今年設置したGRCパネルです。遺跡の真上2mのところに再現しました。

→右の写真は、発掘された太閤堤です。宇治川の洪水で流れてきた砂に、埋まっていました。

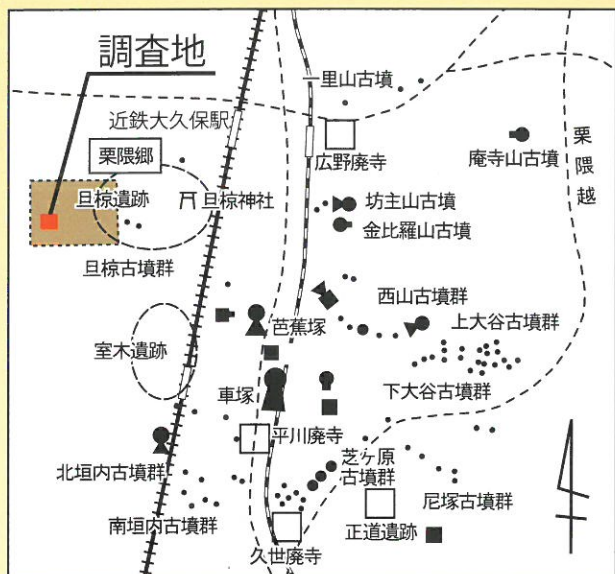


宇治川太閤堤発掘調査（平成24年撮影）



宇治川太閤堤発掘調査（平成28年撮影）

# 平成 28 年発掘調査 大久保環濠集落



大久保環濠集落は、集落の周りに防御のための濠を巡らせた中世の集落跡です。これまでの調査で 14 世紀前半の鋳造遺構を検出してたほか、環濠の埋土の一部と思われる地層を検出し 14 世紀代の土器が出土しています。

## 調査の概要

調査では、古墳時代中期から後期初頭の竪穴建物 4 棟をはじめとして、古墳時代から奈良時代の掘立柱建物、中世の井戸など多くの遺構を検出しました。東半部で検出した竪穴建物では、住居の南東部に収納ピットがあり、ここからは須恵器の杯や土師器の甕、製塩土器が出土しました。西半部で検出した竪穴建物では滑石製の白玉の未成品や加工途中の滑石が出土しており、玉作りが行われていたことが明らかになりました。東半部で検出した井戸は東西 3m、南北 2.5m の素掘りの井戸で 13 世紀のものでした。

今回の調査で、特に注目されるのは古墳時代中期に遡る集落の発見です。古墳時代の竪穴建物から製塩土器が出土したり、別の竪穴建物では玉作りが行われるなど一般的な集落とは様相を異にします。南山城地域で製塩土器が出土しているのは、八幡市の内里八丁遺跡、精華町の森垣内遺跡、木津川市の上狛北遺跡があり、地域の拠点集落か渡来系の遺構・遺物が出土している集落です。このことから今回の調査地付近がこの地域の拠点集落であったと考えられます。また、出土遺物から集落の成立は 5 世紀前半と考えられますが、この時期は久津川古墳群の造営と時期が重なります。現在のところ城陽市域においても同時期の遺跡が確認されていないことから、久津川古墳群造営の基盤となった重要な集落であり、旧栗隈郷の中心であった可能性があります。

